

胸部体表面形状からみた婦人衣服パターン構成に関する研究(第2報)  
 前胸部体表面展開図の頸部・肩部の平面化要素とパターンへの構造化  
 三重大教育 ○増田智恵 奈良女大家政 今岡春樹

【目的】第1報で前胸部体表面展開図の構造をブロックに分けて検討した結果、平面での体形は複雑で人体寸法などの体形要素と展開図での平面化要素(間隙)から成り、間隙は衣服ではダーツや体形によるゆるみに対応して、衣服設計では重要な構成要素であった。第2報では前胸部体表面展開図の頸部・肩部ブロックを中心に体形要素と間隙を把握し、衣服パターン作成のための展開図の構造化と人体寸法からの間隙量の予測を試みた。

【方法】被験者は平均年齢19.3歳の女子50名。右前胸部体表面に基準線(ヨコ:前頸付根線FNL,前肩線FSL,前肩幅線FSWL1~2,胸幅線CWL1~2,前乳頭位胸囲線FBL1~3など タテ:前正中線,乳頭線BPL1~4など)を描き、石膏包帯で体形を採取し、不織布で体表面を転写して原型の形状に近い平面展開図を作成した。展開図のFNL, FSLに間隙は入っていない。

【結果】1.頸部・肩部の平面化要素として前肩幅線に間隙が平均1cm,前腕付根線にFASL4間隙がある。前肩幅線のFSWL1間隙は小さく,人体の前中央部BLとFSWL1から構成される。FSWL2間隙は平均0.60cmでやや大きい。⑨,⑩ブロックの構成辺の展開図と人体の寸法はほぼ同じで,展開図は密着衣原型の構造を示唆した。2.FSWL2間隙を含むFSWL2は⑨,⑩ブロックの六辺の人体寸法の幾何学的関係式からほぼ構造化できる。FSWL2間隙は前肩先斜丈の体形に関係し,さらに胸幅線CWL2間隙と $r=0.72$ の相関がある。FSWL2間隙は⑨,⑩ブロックの六辺の人体寸法とCWL2間隙から構成され,FSWL2間隙を含むFSWL2は肩部の三辺の人体寸法とCWL2間隙から高い精度で推定可能である( $R=0.98$ , 寄与率95.85%)。3.FSWL2間隙,CWL2間隙,FBL2間隙,CFL間隙2は相互に関係して表出するため,人体寸法と各間隙による重回帰式の連立方程式から総合的に算出した。各間隙量と算出した間隙量との平均値には危険率1%で有意差はないが,高い相関がなかった。今後,間隙の有無を判別した分析が必要である。